



HPはこちら

2023年度夏季手当シリーズ⑨



歴史的な物価上昇率に 賃金が追いついていない！

ロシアによるウクライナ侵攻や円安の影響などにより、エネルギー価格や食料品の値上がりに対して私たちの賃金が追いつかず、生活は厳しくなる一方です。

経営側は「経営環境が厳しい」というが 私たち社員の生活はもっと厳しい！

経営側は現状認識について、1回目の団体交渉の中で「原材料やエネルギー価格の高騰で現状にとどまることが許されない経営環境を強く認識しなければならない」と述べています。

しかし、私たち社員の生活を取り巻く環境はさらに厳しくなっています。2022年度（平均）の「消費者物価指数」は生鮮食品を除いた指数が前年度より3.0%上昇となり、その上昇率は1981年度以来41年ぶりの水準となっています。3月の「消費者物価指数」は、前年の同じ月より3.8%上昇し、12ヶ月連続で前の月より上昇しました。また、2023年度に値上げされる食品や飲料は約9,000品目に上る見込みで、6月にはさらに約3,300品目の値上げや電気料金の値上げが予定されており、依然として物価の上昇がとまりません。

○物価上昇による2人以上の世帯での負担額

◆2022年度比

1ヶ月平均約 **2,140円増** 年間平均 **26,000円増**

◆2021年度比

1ヶ月平均約 **3,110円増** 年間平均 **37,000円増**



※帝国データバンク試算

2023春闘で月例賃金は上がったものの 実質賃金は12ヶ月連続で前年より低下

2022年度の物価上昇を反映した「実質賃金」の月平均では、前年度と比べて1.8%減、2023年3月から同月の昨年比では2.9%減となっています。また、基本給や残業代などをあわせた現金給与総額（名目賃金）は、2022年度の月平均で前年度と比べて1.9%増加となっていますが、物価上昇率は3.8%となり、私たちの賃金が追いついていないことが分かります。

安心した生活をおくるには夏季手当要求の実現が不可欠だ！